

問われる みんなの目		政治を見つめる (参院選統一標語)	
久 が 原 地 区 管 内	人口	男	12,355人
		女	12,121人
		計	24,476人
	世帯	10,167世帯	

くわばく

発行：わがまち大田久が原地区
推進委員会

編集：地域情報紙「くがはら」
編集委員会

事務局：大田区久が原特別出張所
〒146大田区久が原2-19-3
(3752) 4271

第三回目を迎えた久が原まつりには、二百名を越える実行委員が揃いました。四月から着々と準備が進められ、まつり前日の夕刻には、松仙小学校々庭一杯に万国旗がはなめきました。

太く高い角柱でつくられた四本の入退場門の柱と、数多くの立看板は全て紅白の横縞で統一されていて、まつり気分が十二分に演出されていました。その上、入退場門の頂からは、吹き流しふうのくす玉飾りが、四自治会の夫々の色、黄、桃、緑、紫と色鮮やかに、裾紐を長く風にたなびかせ、さながら空に舞う天女を見る様でした。

準備万端OKです。

まつり当日七日の朝、へんぽんと翻る万国旗のもと、雨の心配なく、まつりは終了できるものと、誰もが信じきっていました。

ました。天気予報がそうで、
たし、開会式での区長さんの
ご挨拶の中でも、天気は大丈
夫と太鼓判を押して下さいま
したから。

A black and white photograph showing a relay race on a long board. Five children are lined up on a grassy field, each holding onto the shoulders of the child in front of them. They are all wearing sandals and shorts. The child at the front is pushing off with their feet to move the board forward. In the background, there are trees and other children watching from the side.

むかで競走イチ・二 イチ・二

○自治会役員九名に感謝

今年の参加者数は、千三百二十三名、昨年を大きく上回りました。綱引きの優勝杯は東自治会に。準優勝杯は南自治会の頭上に輝き、対抗競走の優勝旗は、道々橋自治会の頭上に翻りました。

この久が原まつりの和やかで明るい雰囲気は、そのまま久が原の町の姿となるでしょう。

ら打ち出される、力強い響きに合わせ、八十を越されたお年寄りの見事な手さばきの踊り様。また、赤ちゃんを片手に抱え、足どり軽く踊られる元気なママさん。ご来賓の卒業経済部長、都市環境部長、校長先生も教頭先生も、笑顔いっぱいで踊りの輪をつないでくださいました。

そこで、久が原地区自治会連合会では、新たな試みとして、今年度独自の防災訓練を四自治会合同で実施すること

しかし、防災訓練は地震時
はもちろんのこと、日常起
りうる事故や災害に役立つ知
識や技術を身につけるいい機
会でもあります。

「近々、関東地方に大地震が起ころるのでは」と言われてから久しい今日この頃です。それと共に、防災訓練も、一部のマンネリ化や、参加者の固定化により、必ずしも一般の防災意識の高揚につながらなくなつていよいにさえ

久が原地区合同防災訓練

人事異動(四月一日付)



昨年の防災訓練

(目黒区立第五中)

防災訓練をめざして、実行委員会を設置し、準備を進めていくこととなりました。すでに六月十八日には、実行委員会設置のための準備会七月七日には、第一回実行委員会が開催されました。席上では、数々のアイデアも飛びかい、どんな企画ができるのか、これからが楽しみな予感がしました。

訓練は、久原小学校横の空き地を会場に実施の予定です。詳しくは回覧、ポスター等

第42回

社会を明るくする運動

七月一日～七月三十一日

「社会を明るくする運動」は、犯罪のない明るい社会を築いていくこうとする全国的な運動です。この運動も、今年で四十二回目を迎えた、「ふれあい」と対話が築く明るい社会」のタイトルで、協力を呼びかけております。

大田区では、区長を委員長として、自治会や町会をはじめ、地域の皆様が運動に参加され、七月八日(水)、区民プラザに於て、中央大会が開かれました。

「社会を明るくする運動」は、P.T.A.の有志によるコラス、また中学生の作文発表など多彩な行事が繰りひろげられ、未来を担うべき青少年の健全育成と環境づくりを呼びかけました。

久が原地域でも、七月十日より青少対を中心にP.T.A.をはじめ関係団体の皆様と講演会や対話集会などの催しが行なわれました。

(川又 浩)

4/12 オープニングセレモニー

くさっぱら公園



くさっぱらで熱気がこもるチビッ子相撲

千鳥一丁目一番地「くさっぱら公園」のオープニングが、四月十日(日)、同実行委員会主催、久が原南自治会後援で行われました。

この日、神奈川県厚木市から訪れたのは、荒れた山林を回復して大人も子どもも遊べる雑木林を作っている「きずなの森」のメンバー二十数人。彼等が根曲りの間伐材から作つた十数本のアルペンホルンの音色は、公園を異国的な空気で包みました。

行政、自治会からの挨拶の後、緑の葉で飾られたくす玉が参加者らの手で割られると、木の葉と花びらが空に舞いました。

また、プログラムにはなかつたバグパイプの演奏をしてくれたのは、横浜市緑政局の職員、森能文さん。珍しい民族楽器の演奏に来場者が沸きました。

人形劇、手作り遊びコーナー、新聞紙の剣で相手の持つ紙袋の人形をたたき合う「人形ちゃんばら」、どろんこケイコンテストなど、催しは多彩。フリーマーケットには手作り品、雑貨、自然食など、二十店舗余りが並び、いらなくなつたおもちゃやカードを売る子供達の姿も。

イベントの最後を盛り上げたのはこども相撲大会。見事に技を決めて得意満面の子、普段負けて悔し泣きする子。普段はなかなか見られない子供達の裸のぶつかり合いに、土俵を囲んだ大人たちの声援も熱を帯びていました。

「くさっぱら公園」は、約一、三〇〇m²の小さな公園で、

模索する場として、月一回「運営会議」が持たれており、だれでも参加できます。日程、場所は公園入口の掲示板に。

（くさっぱら公園オープニング）

（柳沼 和一）

（柳沼 和一）